



2024 年度
第 39 号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

1
「体育市民連帯」
ソウル市教育監
鄭グンシク候補
支持宣言



2
巨大な王朝が
数十年支配…
サッカー協会
書き直すには遅すぎる



3
スポーツ界の
人権侵害は
まだ蔓延している…
懲戒要請 65% 「未処分」



4
楊平郡柔道選手団
「不正人権侵害」
陳情…
警察捜査



5
城南 A 高校
フェンシング部
校内暴力学生全国大会出場
「出場制限規定なし」



*

01 「体育市民連帯」 ソウル市教育監、鄭グンシク候補支持宣言


体育市民連帯は2024年10月5日、ソウル市麻浦区に位置したソウル市教育監鄭グンシク候補キャンプを訪ね支持を宣言した。

鄭グンシク候補は、進歩単一候補としてソウル大学社会科学科教授、1期過去史整理のための真実和解委員会委員長、国家人権委員会政策諮問委員などを歴任した。

この日の支持宣言では学習権保障、現場教育人材拡充、学校暴力予防など体育政策提案も同時になされた。これに対し鄭候補は「すべての学生は体育教育に積極的に参加できるように、学生選手は学習権を保障されるように」大人たちが努力しなければならないということに幅広く共感し、選挙が終わって教育庁で必ず会ってさらに詳しい話を交わそうと約束した。

02 京郷新聞 2024. 10. 02
巨大な王朝が数十年支配…サッカー協会、書き直すには遅すぎる


「ロマンチックに終わらせる」 安セヨン選手の金メダル挑戦は覚悟からして格別だった。約束通り、彼女はパリ五輪で韓国バドミントン女子シングルスで28年ぶりにトップの座に戻し、咆哮した。国民には「ロマンエンディング」だったが、彼女にはこれまで我慢してきた「怒り」を表出する力を得る瞬間だった。彼女は記者会見で、選手の負傷管理、トレーニング方式、選手酷使、後援統制など、代表チームと大韓バドミントン協会の問題点を一つ一つ批判した。安選手の発言

はバドミントン協会だけでなく、大韓体育会、大韓サッカー協会など、体育界の慢性的な問題を振り返るきっかけになった。各種疑惑に対する文化体育観光部の監査が始まり、国会でも先月 24 日、文化体育観光委員会が懸案質問をした。安選手が打ち上げた小さなボールは、体育界革新の信号弾になるだろうか。スポーツ心理の専門家として現場で選手と指導者たちをコーチしてきた西江大学教育大学院のチョン・ヨンチョルススポーツ心理学教授に先月 26 日会った。チョン教授は、「安選手の暴露が韓国体育界で選手自らが自己主張をした初めてのケースで、画期的な事件だ」と評価した。彼は「安選手が勇気を出してくれたことがどれほどうれしいことか」とし「本当の大人なら今回はきちんと答えなければならない」と話した。しかし、今回の懸案質疑は実効性のある対策まで進んでいないと指摘した。「議員たちが構造的な問題は指摘せず、大声だけ出して相手を恥じさせ、侮辱感を感じさせる場合がほとんどだったので、複雑でした。」

チョン教授は、「組織の私有化など体育界の問題はエリートスポーツ政策から始まった」と話した。そして、過去の国家主義エリートスポーツから脱皮するために推進した様々な努力が、尹錫悦政府になって逆行していることを憂慮した。2019 年スポーツ革新委の勧告で学生選手の学習権侵害を防ぐために縮小してきた「出席認定日数」が再び増えたことを代表事例として挙げた。

「それでも希望的なのは、安セヨン選手のように選手たちが覚醒し始め、国民がスポーツを消費する方式が以前のような点です。メダルの色より挑戦過程に拍手を送るほど国民のレベルが上がってきたので、体育界はそれを信じて革新の道を進まなければなりません」

協会運営に問題点が明らかになったサッカー協会、大韓体育会などには果敢な外科的手術が必要だというのがチョン教授の考えだ。彼は「体育特技者制度の全面廃止と体育会で国家オリンピック委員会（NOC）の任務を遂行する大韓オリンピック委員会（KOC）を分離する案も考慮しなければならない」と話した。さらに「みんなのためのスポーツ」への政策転換が必須だと強調した。

- 国会の懸案質疑で、代表監督の選抜をめぐる議論に包まれたサッカー協会は、特に叱責を多く受けました。

「監督選任論議などサッカー協会で起きていることは、巨大王朝が組織を私有化して数十年支配している構造によって起こる副作用と見なければなりません。過ちを指摘しても敏感度が落ちることが最も深刻な問題だと思います」

- ワールドカップの日程のせいで問題が解決されずに続くのも負担です。

「サッカー協会は昨年、八百長事件を起こした人物を奇襲赦免しようとして世論の袋叩きに遭いました。その後も洪ミョンボ監督の選任強行など最悪に突き進んでいます。この程度になると、責任を持って仕上げなければならない人は鄭モンギョ会長本人しかいません。でも最後まで退くとは言わないじゃないですか。内部でも「やめてください」と言わなければならないのに、そんな人がいません。サッカー協会自ら反省して改革を成し遂げることは不可能だと思います」

- 2002 年の「ベスト 4 神話」という成功の記憶があるのに、なぜ変わらないのですか。

「今でもサッカー協会は同じ家の人で運営していますから」

- 鄭会長が退かなければなりませんね。

「鄭会長の退任は第 1 段階で、どのように変わるかが重要ですが。直すにはもう遅すぎるし、新しい船が必要だと思います。今のサッカー協会は過去のように財閥が私費を出して運営しなければならない規模でもありません。数百億の予算も支援され、専門家が引き受けても何の問題もないほど自生力があります。」

それでも数十年間、ある大企業のオーナーが会長職を務めているというのは非常識です。 そのおかしさを本人たちが知らないだけです」

– 議員たちの態度もため息が出るのは同じでした。

「与野党が一つの意味で大韓民国の体育界を叱咤する場でしたが、問題点を指摘するよりは、大声を張り上げ、相手を恥じさせ侮辱感を感じさせる議員がほとんどでした。 普段から関心があるというより、(国民の関心を集めた) 件ができたので声を高めるのですが、すぐにまた別の餌を探してくるだろうという気がして複雑でした。 このようなやり方だと、悪口を言われるサッカー協会に対する同情論が出てくるかもしれません。 2018年の文化体育観光委員会の国政監査で、共に民主党のソン・ヘウォン議員が宣ドンヨル野球代表チーム監督を呼んで怒鳴りつけるだけで、世論が反転したんですよ」

– どのような問題を指摘すべきだったのでしょうか。

「各協会の後進性だけでなく、体育界の慢性的な問題であるエリートスポーツシステムの構造的な問題を指摘すべきでした。 そうでなくても、文在寅政府の時に体育界の改革のために行った様々な努力が、尹錫悦政府で水の泡になる現象が目立っており、懸念されるんです。 例えば、尹政府は運動選手が大会・訓練に参加したことを出席と認める「出席認定日数」を再び増やしました。 出席認定日数は2019年スポーツ革新委の勧告により学生選手の学習権保護のために毎年縮小してきたことなのに原状復帰させてしまいました。 一連の努力が逆行していますが、そのような問題点は指摘せず、協会運営などの問題だけを話しても大きな変化はないでしょう」

– 勉強のために運動に集中できなくなると、国際大会で成績を出せないという懸念もあります。

「ハンドボール国家代表出身の民主党のイム・オギョン議員が8月、学生選手の運動権を保障する『学校体育振興法』改正案を代表発議しました。 学習権に反対する概念として「運動権」という概念を持ち出したのですが、一言で「そのまま死ぬように運動だけさせてくれ」ということです。 改正案には成績基準に達しない選手の大会出場を禁止した「学生選手最低学力制」を覆す条項も盛り込まれました。 最低学力制の背景には「朴槿恵政府国政壟断事件」の始発点となったチョン・ユラ氏不正入学事件があります。 体育特技者選考で大学に入ったチョン・ユラがいなかったら、これはダメでした。 ところが、改革を主導しなければならない野党議員が、かえって逆行する法案を発議するとは、惨憺たる気持ちです。 最近では運動すると勉強とは壁を作るという認識のため、子供が運動すると言ったら親が止める状況です。 それだけ運動選手の需給が難しくなります。 何より学習権は憲法が保障する人間の基本権です。 学校の体育を正常化し、人権侵害など構造的な問題を改善するために学習権は当然保障されなければなりません」

– 体育界の人脈・派閥問題もずっと指摘されてきましたが、あまり変わっていないようです。

「昨日今日のことでいいですね。 一番の問題が延高戦（訳注：高麗大学と延世大学が毎年行われる大学定期戦）だと思います。 今年8月に高麗大学ラグビー部の選手が訓練を受けていたところ熱中症で死亡しました。 今年の延高戦を控えて無理に訓練をさせたことで起きたことで、その土台には過度な競争があります。 そのような部分について、今は批判的な考えをしてみる時になったのではないかと思います。 ラグビー部の事故もそのまま見過ごすところだったが、監督が選手が亡くなった翌日、選手たちを集めて「死んだのは残念だが、我々の前には定期戦があるので、再び運動に邁進しなければならない」と言ったため、選手たちが外部に知らせて明らかになったのです」

- 文体部は大韓体育会の後援会社独占供給権契約、特定業者の仕事集中割当、放漫な予算使用などを取り上げ監査を請求しました。この機会に体育会の「予算配分権」を剥奪する案を検討中だということです。一方では政府の介入を懸念する声もあります。

「朴槿恵政権の時、大韓体育会の予算配分権を奪い、各団体に直接配りました。李ギフン会長が戦って持って行ったものを政府が再び直接管理しようとするのですが、予算配分権を奪われる場合、体育会は打撃が大きいです。本質は大韓体育会が国際オリンピック委員会（IOC）傘下の団体だという点です。大韓オリンピック委員会（KOC）と統合して以来、体育会長がKOC委員長を兼任することになっていますが、これが（スポーツの政治的中立を規定するIOC憲章を掲げて）政治的介入を遮断する盾のようになっています。そのため、体育会は国内体育を総括し、KOCは国際スポーツ関連業務を専門担当する構造に分離・改編する案が議論されてきました。スポーツ革新委でも争点になったことがあります。この問題は「パンドラの箱」です。体育界の構造改革のためには体育特技者制度を全面廃止しなければならない、その次の段階として体育会とKOC分離案も考慮しなければならないと思います」

- 文体委の質疑で、鄭モンギュサッカー協会会長に関心が集中し、李ギフン大韓体育会長は標的から外れていました。エリートスポーツを支えている最大の団体が体育会であるだけに、その責任も明確にすべきだと思います。

「現在の状況は大韓体育会やサッカー協会などが情けないですが、だからといって柳インチョン長官を支持すべきなのか、判断は難しいです。李ギフン会長の3選再任阻止に最も大きな声を出す人が柳インチョン長官です。ところで、柳長官は「文化芸術体育界のブラックリスト」の元凶です。悪がより大きな悪と戦うこの地点で、体育界の改革・正常化を望む人々は、今誰を応援しなければならない、どこに力を入れればいいのか深刻なジレンマに陥っています。まもなく大韓体育会長選挙があるはずですが、李ギフン会長が尹政権に抵抗する闘士に映る可能性もあるという事実は本当にアイロニーです。最近、市民団体も政府が資金源をすべて断ち切ってしまい、厳しい状況ですが、それでは誰が体育界改革の動力を持つていくのかです。それでも希望的なのは安セヨン選手のように選手たちが自ら覚醒し始め、国民がスポーツを消費する方式が以前のような点です。オリンピックのメダルの色は重要ではなく、「4位もかっこいい」と拍手してくれるほど国民レベルが上がってきたので、体育界はそれを信じていかなければなりません」

- 安セヨン選手が勇気を出しました。

「安セヨン選手がメダルを取った後、協会に対する不満を打ち明けたのは画期的な事件だと思います。その前にも有名選手たちと協会の間で葛藤がなかったわけではないんですよ。安選手の場合は、選手が自ら口を開いて自分の主張をした初めての事例ということになります。本当の大人ならちゃんと答えなければなりません。勇気を出してくれたことがどんなに嬉しいことでしょう。最初は安選手を利己的で、お金だけを出す選手としてフレームをかぶせて非難する動きがあったのも事実です。特に、パン・スヒョン解説委員に失望しましたが、パン委員は「本人が選手時代を経験したので、誰よりも事情をよく知っているじゃないですか。それでも協会側をかばう姿を見ていると、苦勞して勇気を出した若い選手を盛り上げてあげられないとしても、公開的に非難する行動にとっても失望しました。これからでも安選手にきちんとした大人たちに助けをもらいたいです」

- 安選手の発言の背景には処遇問題だけでなく、先輩選手の洗濯や掃除など代表チーム内の旧習に対する不満もありました。

「実は選手たちに洗濯、掃除をさせるという話にもならない状況は、他の組織ではすでに消えましたが、2024年大韓民国の体育界では依然として起きています。体育界の変化は権威主義時代のピリオドの意味があるのではないかと思います。」

- 安選手が金メダルを取ったので、こういう話もできたということなんですけれども。被害事実をまともに知らせない人が体育界には依然として多いようです。

「スポーツ業界がとても狭く、ある不当さに対して勇気を出して話すためには未来がないことを覚悟しなければなりません。今指摘した通り、力のない数多くの声の方がはるかに多いです。これらの声にも私たちが耳を傾け、知らせなければならない義務があります。安セヨンくらいにならないと話ができない現実、とても悲しいことです」

- ずいぶん変わったそうですが、暴力と虐待を我慢しているかもしれませんね。

「実際に選手たちに会ってみると、相談の最後の部分に暴力・性暴力あるいは虐待のような話が必ず出てきます。むしろバレないように、過去よりも巧妙な方法で行われています」

- これから体育界がたくさん変わらなければならないようです。

「スポーツはエリートの一部ではなく、すべての市民がアクセスでき、享受できるものでなければなりません。そのような環境を作ることが国家の仕事です。バドミントンだけでも特定団体が施設を独占する方式で運営されるので接近が難しいです。スポーツ権が保障されていません」

- 「みんなのためのスポーツ」の時代に進まなければならないということですか。

「そのとおりです。スポーツ権を保証されない人が依然として多いです。社会の格は、最も低い位置にいる人々がどのような扱いを受けるかにかかっています。体育政策をエリート選手に限定されたスポーツではなく、「みんなのためのスポーツ」に切り替えなければなりません。西江大学で文化連帯プロジェクト「ホホ体育館」を進めています。清掃労働者と学生たちが一緒にバレーボールをするんですよ。地面だけを見ていた女性たちがバレーボールをするために空を見て笑っているのですが、どれほど美しいかわかりません」

出典：<https://www.khan.co.kr/opinion/column/article/202410012037005>

03 デジタルタイムズ 2024. 10. 03

スポーツ界の人権侵害はまだ蔓延している… 懲戒要請 65%「未処分」



スポーツ倫理センターがこの3年間に受け付けた性暴力など人権侵害件数が急激に増えたことが分かった。ただし、懲戒を要請した事件のうち65%ほどが処分されていないことが確認された。体育界が懲戒要請に従わなくても処罰を強制する条項がないという制度上の不備が背景だ。制度の実効性問題と共に体育界の「身内庇護」の弊害が依然として残っているという批判が出ている。

3日、共に民主党のチョ・ゲウォン議員室が文化体育観光部から受け取った国政監査資料を分析した結果によると、スポーツ倫理センターに受け付けられた体育界不正および人権侵害件数は2022年311件、2023年630件、2024年(7月)439件だ。類型別では暴力が170件で最も多かった。次は組織私物化(124件)、横領背任(111件)、性暴行・セクハラ(104件)、八百長(62件)などの順だった。スポーツ界の不正・人権侵

害専門担当調査機構であるスポーツ倫理センターは2020年8月、チョ・ジェボム元ショートトラック国家代表コーチの性暴行事件と故チェ・スクヒョン選手の死亡事件などを契機に設置された。

だが、センターが懲戒を要請してもこの3年間(2022～2024年7月)処分された事件は35%に過ぎなかった。センターは2022年、文化体育観光部に72件の懲戒を要請したが、49件が処理され、翌年の2023年には処理件数が126件のうち28件にとどまった。今年は7月までに20件を要請したが、現在まで措置されたことはないことが確認された。

重懲戒も20件(26%)にとどまった。具体的に見ると、△除名(永久除名)9件△資格停止5年3件△資格停止3年5件△解任3件だった。この中には障害者水泳国家代表コーチが選手を強制わいせつした事件、全羅北道バドミントン界で高校生先輩が中学生後輩に暴行を日常的に行い金品をゆすり取った事件などが含まれた。

大部分は譴責や資格・出場停止1年以下、懲戒なしなど軽懲戒であった。

懲戒がまともになされない主な原因としては「懲戒システム」が挙げられる。センターは事件調査結果により文体部に懲戒を要求し、文体部はこれを大韓体育会、大韓体育会は傘下の市道体育会に渡す。結局、被疑者の所属チームが懲戒を決定する段階まで来るが、この時「身内庇護」が蔓延するという指摘が出ている。

団体で懲戒要請に従わない場合に備えた処罰条項もない。国民体育振興法は、体育団体で懲戒要請を処理しなければならない期限を明示していない。

チョ・ゲウオン議員は「5年前、人権侵害と不正などスポーツ界の長年の弊害が水面上に出てきて社会的合意がなされ、色々な制度的装置が作られた」として「だが、スポーツ現場のあちこちではまだ旧態が減らず、さらに増加していて残念だ」と指摘した。

続けて「スポーツ界の不正と人権侵害に対する全面的な意識変化のためにもスポーツ倫理センターの機能を強化しなければならない」と強調した。

出典：https://www.dt.co.kr/contents.html?article_no=2024100302109958038001&ref=naver

04 ニュース1 2024.10.01

楊平郡柔道選手団「不正人権侵害」陳情…警察捜査



1日のニュース1の取材を総合すると、先月2日、楊平郡庁職場運動競技部の柔道選手団でスポーツ不正と人権侵害が発生したという内容の陳情が受け付けられた。

陳情書には、選手たちが1人当たり毎月15万ウォンずつ集めて監督A氏に渡したという内容が含まれているという。

また、A氏がソウルで酒を飲む時、選手たちを外で待たせて楊平まで代行運転させたという内容も含まれているという。

A氏は現在、職務停止状態であることが分かった。

A氏は、該当疑惑について「とんでもない内容だ」と反論した。

彼は「選手1人当たり1食の食費が2万～3万ウォン程度かかる。ところが一食の食費支援金額は8000ウォン、おやつ代は一日4000ウォン」とし、「足りない食費を埋めるために選手たちの同意の下でお金を集めた」と主張した。

選手たちを相手に代行運転をさせたという疑惑に対しては「選手たちに楊平からソウルまで来いと言うのは話にならない話」とし「代行運転疑惑は事実無根」と反論した。

これに先立って陳情を受け付けた軍は、独自の調査を行った後、先月26日、楊平警察署に捜査を依頼する公文書を送った。

軍関係者は「陳情が受け付けられ警察に捜査を依頼した」として「調査中の事案なので詳しい内容は知らせることができない」と説明した。

警察関係者は「関連資料を検討し調査する計画」とし「捜査しているため詳しい返事は難しい」と話した。

軍柔道選手団は10人の選手で構成されており、そのうち4人は今月開かれる全国体育大会柔道競技個人戦に出場する。

道で最も多い出場人数で、これによってA氏は道柔道選手団の監督も務めている。

京畿柔道会関係者は「該当事案を慎重に見ている」とし、「捜査結果により措置する」と話した。

出典：<https://www.news1.kr/local/gyeonggi/5555857>

05 京畿新聞 2024. 10. 04

城南 A 高校フェンシング部校内暴力学生全国大会出場・・・「出場制限規定なし」



京畿道城南 A 高等学校フェンシング部でコーチの学生暴行と学生間の学校暴力事件が発生した中で暴行の疑いを受けたフェンシング部コーチ B 氏と学生選手たちが最近検察に送致されたことが確認された。しかし、暴行の疑いが持たれている学生選手は、全国体育大会への出場を続けるものと見られ、批判の声は高まっている。

3日、京畿新聞の取材を総合すると、城南中院警察署は9月27日、A高校フェンシング部コーチ B 氏とフェンシング部選手 C 君などを暴行などの疑いで送検した。B氏は事件後、同月4日に辞職処理されたことが確認された。

近隣の学校と連携して運動部を育成している B 氏は、野球バットなどを利用して学生選手を常習的に暴行した疑いを受けている。

フェンシング部の一部の学生も3月から六角ドライバー、野球バットなどで同じフェンシング部の後輩を殴打したり頬を殴ったり身体部位をつねるなど持続的に暴行したと知られた。

問題は暴行の疑いが認められると判断し、警察捜査後に検察に送致された状況でも暴行を犯した学生選手たちの全国体育大会出場を制裁する法的根拠がないということだ。全国体育大会を含めた大会出場規定は、学校暴力審議委員会の処分結果だけが影響を受けるためだ。

京畿道教育庁関係者は「検察送致とは別に学生『教育』目的を持っている教育機関は加害措置を受けた学生たちに軽い懲戒を下す可能性もある」とし、「学校暴力対策審議委員会処分なしには全国体育大会選抜学生たちを制裁する根拠が全くない状況」と説明した。

2021年2月に審議・議決された「学校運動部暴力根絶およびスポーツ人権保護体系改善方案」によれば、学校暴力加害学生として措置を受けた学生選手は大会出場が制限される。

学校暴力の加害生徒に対する措置は書面謝罪(1号)から退学(9号)まで計9種類があり、軽微な事案に該当する1~3号処分を受けても3ヶ月間種目別大会と総合大会に出場できない。特に退学処分を受けた高校生選手は選手資格を剥奪する。

しかし、全国体育大会がわずか8日残った現在の時点まで、A高校フェンシング部の学校暴力対策審議委員会の処分結果は出ておらず、該当事件の学校暴力審議委員会の懲戒結果は全国体育大会以後の10月末に出るものと予想される。

また、大会出場を控えている状況のように、学校暴力対策審議委員会の懲戒結果が出るのが急がれる場合にも、審議日程を繰り上げたり調整することは不可能だという。

このように暴行の疑いがあると見る警察の捜査結果にも学校暴力対策審議委員会の処分結果が出なかったという理由で加害者と名指しされた学生たちの出場を制裁できない状況に批判は大きくなっている。

城南地域のある保護者は「事件以後、フェンシング部を巡り廃止論難など雑音が絶えないと理解している」として「加害者と名指しされた学生たちが何もなかったように大会に出るということは話にならない」と伝えた。

出典：<https://www.kgnews.co.kr/news/article.html?no=811778>

06 週間スポーツニュース

韓国レスリング伝説 キム・イクジョン、体育所蔵品寄贈に参加

https://www.news1.com/view/NISX20241007_0002911070

国民体育振興公団、レジャースポーツフェスティバル

<https://www.starnewskorea.com/stview.php?no=2024100714232890684>

文化体育観光部、バドミントン協会臨時総会開催中止を要求…「定款違反」

<https://www.etoday.co.kr/news/view/2407213>

文化体育観光部「国際スケート場公募を再び推進」

<https://news.kbs.co.kr/news/pc/view/view.do?ncd=8076015&ref=A>

慶州市、外洞2産業団地内に国民体育センターを建設

<https://sports.donga.com/article/all/20241006/130159633/1>

第 18 回京畿道障害者生活体育大会 2024 城南開催

<https://www.asiatoday.co.kr/view.php?key=20241007010003260>

大韓体育会、2036 年夏季五輪を本格的に推進

https://news.sbs.co.kr/news/endPage.do?news_id=N1007825382&plink=ORI&cooper=NAVER

義王都市公社、生活体育施設内のキオスク機能改善

<https://www.sportsseoul.com/news/read/1466708?ref=naver>

国民体育振興公団、対国民スポーツ ESG 実践公募展開催

<https://www.hankyung.com/article/202410079694i>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>